令和８年度野々市市議会高校生議会
会議録



野々市市議会

■日時

令和８年７月23日(木)午後２時30分から午後４時18分まで

■出席者

（高校生）

石川県立野々市明倫高等学校

１番　原野晃太議員、２番　金森煌大議員、３番　田中大智議員、
４番　増山ほのか議員、５番　大西結衣議員、６番　松田姫愛議員、
８番　小林舞香議員、９番　西山空音議員、10番　中野龍弥議員、
11番　羽左間隆太議員、12番　長守慶仁郎議員、13番　西井悠真議員、
14番　木村治斗議員、15番　野々村颯人議員

（野々市市議会議員）

岩見博議員、中村義彦議員、西本政之議員、安原透議員、北村大助議員、
向田誠市議員、小堀孝史議員、朝倉雅三議員、梅野智恵子議員、畠中勝己議員、
田中陽子議員、西村雅博議員、中村和流議員、木谷直子議員、三納昭博議員

（野々市副市長）

山口良副市長

開　　会

7月23日午後２時30分開会

○野々村颯人議長　これより令和８年度野々市市議会高校生議会を開会いたします。

本日、議長を務めます、野々市明倫高校の野々村颯人です。よろしくお願いいたします。

議　長　挨　拶

○押田浩三議会事務局長　議会事務局長の押田と申します。

初めに、主催者を代表いたしまして、安原透議長が御挨拶を申し上げます

〔安原透野々市市議会議長登壇〕

○安原透野々市市議会議長　令和８年度野々市市議会高校生議会を開催するにあたり、一言、御挨拶を申し上げます。

まず、石川県立野々市明倫高等学校の15名の皆様、ようこそ、この野々市市議会高校生議会に参加をいただきました。まずは心からの、皆様への御期待を申し上げたいというふうに思います。

そして、この開催にあたりましては、明倫高等学校の久保出校長先生をはじめ、多くの先生方の御尽力、御協力をいただき、また、教育委員会の皆様方の御尽力もいただいて、この開催に至っておりますこと、改めて心から感謝を申し上げたいと思います。

また、本日は公務御多用のなか、山口副市長にも御臨席を賜っております。ありがとうございます。

15名の高校生議員の皆様には、自ら手を挙げて参加をいただき、今日、この場におられるとお伺いをしております。皆様の、何か新しいことに挑戦をする、チャレンジをする、その心が大変大切だと思いますし、その前向きな心に改めてエールを送りたいと思います。

市議会は、市民の皆様の声を市政に反映をする大切な役割を担っております。

本日は、皆様がその役割を担って、そして皆様、経験・体験をしていただき、そして高校生の皆様ならではの視点から、ぜひ、御議論をいただきたいな、闊達な御議論をいただきたいなというふうにも思っております。

そして、この高校生議会が未来のまちづくりに役立つ、そのことも願っております。

結びになりますが、皆様方の実り多き高校生議会に対して、実り多きものになりますことを心から御祈念を申し上げまして、御挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

出　席　者　の　紹　介

○押田浩三議会事務局長　続きまして、高校生議員、副市長、市議会議員の紹介に移ります。

それでは、初めに高校生議員の御紹介をいたします。

先ほど自己紹介をいたしました、野々村颯人議長以外のお名前を議席番号順にお呼びい

たしますので、返事をして起立をし、礼をして着席をしてください。
石川県立野々市明倫高等学校、１番原野晃太議員、２番金森煌大議員、３番田中大智議員、４番増山ほのか議員、５番大西結衣議員、６番松田姫愛議員、８番小林舞香議員、９番西山空音議員、10 番中野龍弥議員、11 番羽左間隆太議員、12 番長守慶仁郎議員、13 番西井悠真議員、14 番木村治斗議員。

以上で、高校生議員の御紹介を終わります。

続きまして、副市長、市議会議員の御紹介をいたします。

順にお名前をお呼びいたしますので、その場で御起立をお願いいたします。

なお、市議会議員につきましては、先ほど御挨拶を申し上げました、安原透議長以外のお名前をお呼びいたします。

山口良副市長、岩見博議員、中村義彦議員、西本政之議員、北村大助議員、向田誠市議員、小堀孝史議員、朝倉雅三議員、梅野智恵子議員、畠中勝己議員、田中陽子議員、西村雅博議員、中村和流議員、木谷直子議員、三納昭博議員。

以上で副市長、市議会議員の御紹介を終わります。

本日の、野々市市議会高校生議会の議長は、野々村颯人議長、原野晃太議長の順に務めていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

一　般　質　問

○野々村颯人議長　これより、一般質問を行います。

通告を受けておりますので、順次発言を許します。

１番、原野晃太議員。２番、金森煌大議員。３番、田中大智議員。

〔原野晃太議員、金森煌大議員、田中大智議員登壇〕

○野々村颯人議長　１番、原野晃太議員。

○原野晃太議員　私は、長引く物価高騰から子育て世帯の家計を守るため、本市に在住または在学する公立小・中・高校の学校行事にかかる費用、特に、修学旅行費などに対する、市独自の公的補助制度の新設を提案いたします。

現在、物価高はあらゆる家庭の生活を圧迫しており、教育費の負担も年々大きくなっています。

私自身、先月修学旅行に参加いたしましたが、その費用の大きさを肌で感じ、各家庭の経済的負担の大きさを痛感いたしました。

本市には修学援助制度がありますが、これは対象となる世帯や小・中学生に限られており、高校生やいわゆる中間層と呼ばれる、多くの一般家庭の負担軽減には至っていません。

そこで、全ての世帯を対象に、学校行事の半額あるいは一定額を、市が補助する取組を提案します。これが実現すれば、各家庭の経済的負担が大幅に軽減されることは、間違いありません。

さらに、石川県で最も子育てに優しいまちとしての野々市市のブランド力が強まり、若い

世代の定住や人口の増加、まちの活性化につながると確信しております。
本市がさらに住みやすく、全ての家庭に寄り添う温かいまちに発展するため、ぜひ、本提案の前向きな御検討をお願いいたします。
○野々村颯人議長　岩見博さん。
〔岩見博登壇〕
○岩見博　原野晃太議員から、議員の御自身の修学旅行での実体験を基に、御家庭の経済的負担軽減に関する御提案をいただきました。お答えをいたします。
議員御指摘のとおり、長引く物価高騰は、市民の皆様の生活に大きな影響を与えております。
こうしたことから、本市では市民の生活を支援するため、本市の住民基本台帳に記録されている全ての方を対象に、市内の店舗で御利用いただける野々市生活支援商品券を配布したところでもあります。
野々市市はこれまでも、野々市市立小・中学校に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的な理由で就学が困難となることのないように修学援助制度を設け、修学旅行費や学用品費等の援助を行っております。
また、修学援助制度の有無に関わらず、教材の選定や保護者の負担の内容を見直すなど、学校現場で実施可能な取組も進めているところでもあります。
御提案をいただきました、全ての世帯を対象とした補助制度を実施するためには、多額の財源が必要となりますことから、学校行事費を含む教育費の負担の実態や、他自治体の取組事例なども参考にしながら、全ての世帯への公平性を鑑み、慎重に検討を重ねる必要もございます。
議員がおっしゃるとおり、子育てに優しいまちを目指す上で、教育費の負担軽減は重要な要素のひとつであると認識をしておりますが、子育て世帯に寄り添う様々な施策を積み重ねていくことが、定住促進やまちの活性化にもつながるものと考えております。
今後も、野々市市がさらに住みやすく、温かいまちに発展するよう、効果的な支援の検討を続けてまいりたいと思っております。
どうか御理解のほど、よろしくお願いいたします。
答弁を終わります。
○野々村颯人議長　２番、金森煌大議員。
○金森煌大議員　私は、美しい野々市市を守るため、市内の公共スペースへのごみ箱の設置数を増やすことを提案します。
先日、学校の社会清掃を行った際、道端のタバコの吸い殻や、空き缶などのポイ捨てされたごみが、たくさん落ちている現状を目の当たりにしました。これは、モラルの問題だけでなく、まちの中にごみを捨てる場所が不足していることも一因ではないでしょうか。
ごみ箱を増やすことは管理面の課題もありますが、駅周辺や通学路など、場所を限定して設置すれば、ポイ捨ての抑止力になることを確信しています。

まちの景観を守るため、ごみ箱の増設について、市の考えをお聞かせください。

○野々村颯人議長　中村義彦さん。

〔中村義彦登壇〕

○中村義彦　金森煌大議員の一般質問にお答えをいたします。

ポイ捨てを減らすため、公共スペースにおけるごみ箱の設置数を増やしてはどうかといった御提案をいただきました。

ごみ箱を増設することは、手持ちのごみのポイ捨てを防ぐ有効な手段であると考えます。

しかし、その一方で、ルールを守らない一部の方による家庭ごみの持ち込みや、カラスなどの影響でごみが散乱する可能性、また害虫の発生・悪臭など、環境を良くするはずが逆に環境悪化につながるケースも考えられます。

市といたしましては、ごみ箱は既に公共施設に設置され、指定のごみ箱に適切に捨てていただくことになっております。

または、自分の出したごみはお持ち帰りいただくことをお願いをし、設置数を増やすことについては、様々な問題もございますので、市内の環境美化につながる取組などを引き続き検討をしてまいりたいと思います。

○野々村颯人議長　３番、田中大智議員。

○田中大智議員　私は、市内に若者が集える商業娯楽施設を増やす、あるいはそうした民間施設を誘致することを提案いたします。

現在、私たち高校生が友人と休日に遊ぶ際、市内には適した施設が少なく、市外へ移動せざるを得ないケースが多々あります。

これには、多大な移動時間や交通費がかかり、学生にとって大きな負担となっています。また、地元の若者が市外で消費行動を行うことは、市の消費活動機会の損失であり、地域の活性化につながりにくいと感じております。

もし、市内に魅力的な商業娯楽施設が増えれば、市民の満足度が向上するだけでなく、市内での消費が促され、市税収入の増加が期待できます。さらに、魅力的なエンターテインメント施設ができることで、市外からも多くの人が集まり、関係人口の創出や地域のさらなる活性化にもつながると考えます。

野々市市が単なる住みやすいまちにとどまらず、若者にとっても住みやすく、かつ楽しいまちへと発展するために、この提案は不可欠であると確信しております。

ぜひ、前向きな御検討をお願いいたします。

○野々村颯人議長　西本政之さん。

〔西本政之登壇〕

○西本政之　田中大智さんの御質問にお答えいたします。

議員から、本市における若者の集える場所の創出と、それに伴う地域活性化について、貴重な御意見をいただきました。

本市は金沢市と白山市に隣接しており、コンパクトな市域の中に、多くの住宅地が広がり、

若い世代の方々を中心に人口が増えていることが特徴であり、強みであると認識しております。

こうした特徴や強みを活かし、都市計画事業や土地区画整理事業などの都市基盤整備を進め、皆様も御存知の大型商業施設のコストコや、野々市明倫高校の近くにあります南ヶ丘病院の誘致に取り組んでまいりました。

また、企業誘致に関する助成制度を設け、市外からの企業進出を積極的に後押しするとともに、飲食業や小売業の出店を支援するなど、地域経済の活性化と生活利便性の向上に取り組んできたところでございます。

一方で、議員お話しのとおり、高校生をはじめとする、若い世代の方が集うような大型の複合施設がなく、市外へ移動する現状や、それに伴う負担があることについては、市といたしましても承知をいたしているところでございます。

今後につきましては、民間事業者が野々市に進出したいと意欲を持てるようなまちづくりを進めるとともに、若い世代の方々に野々市市に住みたい、住み続けたいと感じていただけるように、若い世代の方々の御意見を伺いながら、さらに魅力のあるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

○野々村颯人議長　１番、原野晃太議員。２番、金森煌大議員。３番、田中大智議員。

○原野晃太議員　私たちの質問に答弁していただき、ありがとうございました。

○野々村颯人議長　４番、増山ほのか議員。５番、大西結衣議員。６番、松田姫愛議員。

〔増山ほのか議員、大西結衣議員、松田姫愛議員登壇〕

○野々村颯人議長　４番、増山ほのか議員。

○増山ほのか議員　私はコミュニティバスのっティについて、現在の循環ルートに加え、逆回りのルートを新設し、双方向での運行を行うことを提案いたします。

私は普段、北部ルートを利用して帰宅しておりますが、明倫高校から一番近い北部ルートのバス停フォルテまで、徒歩で約 20 分かかります。また、中央ルートののっティでは約 40 分でフォルテに、西部ルートののっティでは約 35 分で野々市駅南口に到着し、北部ルートに乗り換えます。

しかし、黒い矢印の逆方向のルートがあれば、中央ルートを利用して約 15 分、西部ルートを利用しても約 25 分でバス停に到着し、乗り換えすることができます。

実際、私はのっティを利用したいのですが、長時間待つことになるため、徒歩を選択しています。

特に雨の日は歩いて行くと、制服やリュックが濡れて余計に疲れます。また、私以外にも同様の状況の方がいることを、よく耳にします。

そのため、ぜひ、のっティの双方向の運行の前向きな御検討をお願いいたします。

○野々村颯人議長　安原透さん。

〔安原透登壇〕

○安原透　増山ほのか議員の一般質問にお答えをいたします。

野々市明倫高校の皆様には、日頃より通学や日常生活において、コミュニティバスのっティを御利用いただき、誠にありがとうございます。

コミュニティバスのっティは、地域住民の皆様の移動を支援し、公共施設や鉄道駅などへのアクセスを確保することで、住民活動の活性化を図ることを目的として運行をしております。

議員より御提案をいただきました、のっティの逆回りルートの増設ということにつきましては、野々市明倫高校の皆様をはじめとする、地域の方々の利便性向上及び利用者の増加に資する、有意義な施策であると認識をしております。

しかしながら現在、全国的に深刻化をしているバス運転手不足への対応に加えて、燃料費や人件費の高騰に伴う運行経費の増大といった大きな問題がございます。

このような背景から、現時点におきましてはバス会社の運行体制の確保や、予算面での調整などを優先する必要があり、逆回りルートを増設することは困難な状況にあります。

いただきました御意見は、今後のコミュニティバスのっティの利便性向上や、利用促進を図る上での貴重な御提案でございますので、ぜひ、御参考にさせていただきたいと思います。

今後とも、市民の皆様に安心、かつ便利に御利用いただけるよう、サービスの維持・向上に努めてまいります。

○野々村颯人議長　増山ほのか議員。

○増山ほのか議員　先ほどの意見につきましては、逆回りのルートを新設するのは、通勤・通学者の多い、朝方の時間帯又は夜間の時間帯などを制限して運行したり、または、のんキーで採用されている１時間ごとに交代しながら運行することを提案いたします。

○野々村颯人議長　安原透さん。

〔安原透登壇〕

○安原透　増山ほのか議員の再質問にお答えをいたします。

増山ほのか議員からは、この逆回りルート、ぜひ制限をしながらも、ぜひ増設したらどうかという今、再質問でございました。

繰り返しになりますが、今現在、全国的に深刻化をしているバス運転手不足への対応に加えて、燃料費や人件費の高騰に伴う、運行経費の増大といった大きな課題がございます。

このような背景から、現時点におきましてはバス会社の運行体制の確保や、予算面での調整を優先する必要性があり、逆回りルートを増設することは困難な状況であるということでございます。

ただ、いただきました御意見は、今後のコミュニティバスのっティの利便性向上や利用促進を図る上での貴重な御意見、御提案でございますので、ぜひとも、参考にさせていただきたいと思っております。

○野々村颯人議長　５番、大西結衣議員。

○大西結衣議員　私は、コミュニティバスのっティのバス停における、ベンチや寄りかかり柵の設置を提案いたします。

現在、本市のバス停において、近くに休憩できるベンチ等が設置されているのは、市役所などの一部の公共施設付近に限られており、大半のバス停には座る場所がありません。

しかし、買い物帰りの方や重い荷物を持った学生、そして高齢者の方々にとって、立ったままバスを待つことは身体的に大きな負担となっています。

もし、バス停に少しでも休憩できるスペースがあれば、待ち時間を快適に過ごすことができ、移動の負担も大幅に軽減されます。設置スペースが限られている場所であれば、歩行者の通行を妨げない省スペース型のスリムベンチや、お尻を乗せて寄りかかるだけのヒップレストを導入するという方法も、大変有効であると考えます。

このように、限られたスペースでも設置可能な設備を活用し、年齢や体力を問わず、誰もが安心してのっティを利用できる、優しいバス停環境の整備を進めていただきたいと考えます。

市の前向きな御検討をお願いいたします。

○野々村颯人議長　北村大助さん。

〔北村大助登壇〕

○北村大助　大西結衣議員の御質問にお答えさせていただきます。

コミュニティバスのっティのバス停におけるベンチの設置状況でございますが、大西議員御指摘のとおり、市役所やＩＲ野々市駅などの一部の主要な駅のほか、バス停に面する店舗などが、その敷地内において御好意により、設置がなされたものを除き、市として新たな設置は現在行っておりません。

本市のコミュニティバスのっティは、地域公共交通の確保はもとより、高齢者や障害のある方々の移動利便性の向上、さらには、環境負荷の低減を目的として運行をしております。

そのため、運行経路の設定に当たっては、幹線道路のみならず、歩道のない狭い住宅街の道路も含まれております。

ベンチなどを設置するに当たっては、安全面など様々な課題がございます。

具体的には、十分な設置スペースの確保及び安全性の検証、歩行者、自転車さらには自動車の交通安全上の影響、そして道路管理者の許可及び近隣住民や店舗の皆様の御理解と御協力などについて、慎重に検討を行う必要がございます。

このことから、現状では、歩道を含めた道路上でのベンチの設置は、難しい状況でございます。

大西議員より御提案のありました、省スペース型のスリムベンチや腰掛けとして利用できるヒップレストにつきましては、高齢者や手荷物の多い利用者の皆様の身体的負担を軽減する上で、非常に有効な手法であると思っております。

大西議員よりいただきました御提案につきましては、これからのバス停の環境を改善していくための貴重な御意見として受け止め、調査研究を進めてまいりたいと考えております。

今後とも、誰もが安心して利用できる、優しいバス停環境の整備に努めてまいりたいと思

います。

○野々村颯人議長　６番、松田姫愛議員。

○松田姫愛議員　私は、来来亭野々市店近くの歩車分離信号を、一般的な信号機に変更することを提案します。

私は自転車登校なので、中学生の時も、現在もその信号を利用しているのですが、利用する側からすると、不便に感じる場面や危険に感じる場面があります。

また以前、車両側の信号は赤なのに、渡っている車を見かけました。おそらく歩道者側の信号だけを見て判断したんだと思います。

これは、一歩間違えれば事故につながることです。

歩車分離信号は本来安全のためのものですが、現状の運用では、かえってドライバーの誤認を招き、危険を生み出している側面があります。

そこで、この交差点の信号サイクルを、一般的な運用方式へ変更することを含め、ドライバーへの注意喚起看板の設置など、事故を未然に防ぐための具体的な安全対策を講じていただきたいと考えます。

誰もが安心して通行できる通学路の確保に向け、ぜひ、御検討お願いいたします。

○野々村颯人議長　向田誠市さん。

〔向田誠市登壇〕

○向田誠市　松田姫愛議員の一般質問にお答えいたします。

松田議員から、歩車分離式信号機に関する御提案をいただきました。

歩車分離式信号機は、歩行者と車両の通行時間を分離することにより、歩行者の安全な横断を確保し、交通事故を防止するものとして、全国的に導入が進められているものであり、松田議員お話しの三納交差点においては、令和３年３月に導入されております。

歩車分離式信号機が、歩行者が事故に遭うリスクの低減に有効とされている一方で、信号のサイクルが長くなることに伴い、周辺道路での渋滞など、懸念する声があることは承知しております。

野々市市としましては、歩行者との安全確保に向け、今後も三納交差点の交通状況を注意深く見守るとともに、地域の方々や、市の交通関係団体などの御意見を伺いながら、信号サイクル間隔などについて、必要に応じ、警察への申し入れを行うほか、松田議員お話しの注意喚起看板の設置などを効果的な安全対策についても、引き続き、実態調査や分析を行ってまいりたいと考えております。

○野々村颯人議長　４番増山ほのか議員、５番大西結衣議員、６番松田姫愛議員。

○松田姫愛議員　ありがとうございました。

休　　憩

○野々村颯人議長　この際、暫時休憩いたします。

再開は午後３時 20 分といたします。

午後３時11分休憩

再　　開

午後３時 20 分再開

○原野晃太議長　休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより議長を務めます、野々市明倫高校の原野晃太です。よろしくお願いいたします。

引き続き、一般質問を行います。

一 般 質 問 （ 続 ）

○原野晃太議長　８番、小林舞香議員。９番、西山空音議員。

〔小林舞香議員、西山空音議員登壇〕

○原野晃太議長　９番、西山空音議員。

○西山空音議員　私は地域の活力を守るため、野々市市における空き家の利活用について提案します。

本市は人口が増加している一方で、高齢化も進行しており、相続などの理由から空き家が発生していることが課題となっています。空き家を放置することはリスクですが、リノベーションして、地域の多世代交流スペースや学生・若者のチャレンジショップとして活用すれば、新しい賑わいの拠点に生まれ変わります。

まちの魅力を高めるため、空き家を地域や若者のために有効活用していくお考えについて、市の御見解をお聞かせください。

○原野晃太議長　小堀孝史さん。

〔小堀孝史登壇〕

○小堀孝史　西山空音議員の御質問にお答えいたします。

まず、市内の空き家の状況について御説明いたします。市が行った実態調査の結果では、空き家は約 150 軒です。このうち、危険性や衛生上、景観上の問題で市が認定した特定空家は０軒となっています。

全国の統計調査によりますと、全国の空き家率は 5.9％、石川県全体では 7.3％であるのに対し、野々市市は 1.6％で、市内の空き家は比較的少ない状況にあります。

御提案いただきました、空き家をリノベーションして、地域の多世代交流や、若者のチャレンジの場として活用するという視点は、まちの活性化と賑わいの創出のために、本当に貴重な御提案だと思います。

市のこれまでの取組を紹介しますと、古民家を所有されていた方の御希望により、市の補助金を利用して、旧北国街道沿いの築 140 年の古民家をリノベーションし、新たに居酒屋や美容院が開業した事例があります。

一方で、空き家は所有者の皆さんにとって、貴重な資産でありますので、市が直接活用することは難しく、市としてできることは限定的です。

市といたしましては、西山議員からの貴重な御意見をいただいたことを、空き家の所有者や地域の皆さんにお伝えしていくとともに、市として支援できる仕組みを検討してまいりたいと考えております。

○原野晃太議長　８番、小林舞香議員。

○小林舞香議員　私は、道路反射鏡増設及び設置状況の見直しを提案いたします。

私は中学生の頃から現在に至るまで、市内の道路を自転車で通学しておりますが、日々の生活の中で、前方から来る車や歩行者が視認しにくく、安全確認が困難な場所が多々あると感じています。

一方で、適切な場所に道路反射鏡があることで、事故が未然に防がれている場所があることも実感しております。

特に早急な対策をお願いしたいのが、ユニクロ野々市店付近の地下道です。この場所は小・中学生の通学路になっており、既に道路反射鏡は設置されています。

しかし、道幅が狭く、ミラーが地下道の出入口に近すぎるため、前方から来る人や自転車の発見が遅れ、私自身も衝突しかけた経験があります。

また、車を運転する家族からも、対向車が直前まで見えなくて危ないという声を聞いています。

このように設置はされていても、現在の位置や角度では十分に安全確認ができていない場所が存在します。

そこで、単に新しいミラーを増やすだけでなく、既存のミラーの角度調整や、より広範囲が見える大型ミラーへの交換、そして必要な場所への増設を強く提案いたします。

地域の子供たちが毎日、安心して通行できる環境を作るため、ぜひ、前向きな御検討をお願いいたします。

○原野晃太議長　朝倉雅三さん。

〔朝倉雅三登壇〕

○朝倉雅三　小林舞香議員の質問にお答えいたします。

道路反射鏡につきましては、建物や塀などにより見通しが悪く、事故の恐れがあるなど交通安全上支障となる箇所には、現場状況を確認の上、設置をしているところでございます。

設置が困難な場合は、徐行や一時停止を促す路面表示、看板を設置し、注意喚起を行うなど安全対策を講じております。

道路反射鏡の角度につきましては、設置の際に角度の調整を行っておりますが、車両の接触などで角度が変わることがあるため、その都度、再調整を行っております。

議員御指摘の、ユニクロ野々市店付近の地下道に設置されております道路反射鏡につきましては、稲荷側から三日市方向に車両が通行する際、対面で歩道から地下道に入ってくる歩行者が、死角となる部分があり、危険を伴うことから、安全に配慮し、地元が設置したものでございます。

今後、私ども、もしくは市の担当者より町内会に働きかけるとともに、角度の調整を行っ

てまいりたいと考えております。

この地下道では、道路上に通過車両の速度抑制を図るための段差、いわゆる円形ハンプなど、歩行者の安全対策の強化や警察との連携により、通学時間帯に車両の通行禁止などの対策を行ってまいりましたので、自転車や自動車で通過される際には速度を抑制し、安全に注意いただきたいと考えております。

議員のお話しの、地域の子供たちが毎日安心して通行できる環境を作ることはとても重要なことであり、今後とも、適切な箇所への道路反射鏡の設置をはじめ、現状の状況に即した交通安全対策に、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

昨年８月５日、大雨が降りまして、今おっしゃっている地下道、水没いたしました。

その結果、東側に設置されております電光掲示板が破損しまして、今年８月末を目途に、修理が完了すると聞いております。

そういった意味で、少しでも安全な対策をとってまいりたいと思っております。

以上です。

○原野晃太議長　９番、西山空音議員。

○西山空音議員　私は、本市の持続的な発展に向け、国際会議や大規模イベント、コンサートなどが開催できる、多機能型の大型施設の設置を提案いたします。

本市は、交通利便性の高いコンパクトなまちであり、充実した子育て支援や文化施設を背景に、住みやすく便利なまちとして人口が増加し、活気に満ち溢れています。

しかし、このように市内が活性化している一方で、市外や県外から大規模に人を呼び込むためのビジネスハブが不足していると感じております。

ビジネスハブとは人、物、情報が集中し、周辺地域の経済活動の中心地として機能する場所のことです。

本市が持つコンパクトシティとしての強みや、高い交通利便性を活かせば、国内外から多くの人々や、ビジネスを呼び込むことは十分に可能であると考えます。

大型の複合会場を整備し、エンターテインメントイベントを誘致・開催できれば、交流人口や関係人口の飛躍的な増加につながります。

それは、単なる経済効果にとどまらず、野々市市の国際的な知名度を高め、次の世代へ向けた持続的な発展の足がかりになると確信しております。

御検討のほど、よろしくお願いいたします。

○原野晃太議長　梅野智恵子さん。

〔梅野智恵子登壇〕

○梅野智恵子　西山空音議員の御質問にお答えいたします。

大型イベント会場設置についての御質問をいただきました。

本市の活力を維持するために、大規模なエンターテインメントによる賑わいの創出や、国内外から多くの人や、ビジネスを呼び込む拠点となるビジネスハブを整備するという視点は、将来の持続的な発展を考える上で、大変重要な施策であると考えております。

本市では、限られた市域の中で、最大限の効果を発揮できるよう、大規模な施設整備という形に限定せず、市内の大学や企業、そして行政が密接に結びつく産官学連携という、本市独自の強みを活かした基盤整備を進めているところでございます。

具体には、新産業の創出を図るために、起業家育成施設であるいしかわ大学連携インキュベータ i-BIRD を拠点に、野々市市初のベンチャー企業の育成に努めているほか、１の１ＮＯＮＯＩＣＨＩにおけるシェアオフィスの整備など、新しい挑戦が生まれる環境作りに取り組んでまいりました。

また、文化会館フォルテなどを活用して、野々市じょんからまつりや、若い世代の方々に人気の声優トークショーを開催するなど、市内外から多くの方々に本市にお越しいただけるよう、多様なイベントの展開にも注力しているところでございます。

今後につきましても、西山議員御提案のような、大規模な集客の可能性を検討していくとともに、まずは、既存の拠点施設をさらに有効に活用して、市内外からの集客に努め、さらには、西山議員のような次世代を担う皆さんが、将来ビジネスの舞台として野々市市を選んでいただけるよう、本市にふさわしい、持続可能な野々市市型ビジネスハブの推進に取り組んでまいりたいと考えております。

○原野晃太議長　８番小林舞香議員、９番西山空音議員。

○小林舞香議員　答弁をしていただき、ありがとうございました。

○原野晃太議長　10 番、中野龍弥議員。11 番、羽左間隆太議員。12 番、長守慶仁郎議員。

〔中野龍弥議員、羽左間隆太議員、長守慶仁郎議員登壇〕

○原野晃太議長　10 番、中野龍弥議員。

○中野龍弥議員　私は、市民が日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らせる環境作りのため、本市における運動施設の増設及び地域的なバランスを考慮した、スポーツ環境の整備を提案いたします。

私が、この提案を行う理由は大きく２つあります。

１点目は、現在運動できる主要な施設が市の中央部に集中しており、地域的な偏りがあることです。

２点目は、天候に左右されず利用できる屋内スポーツ施設が、市内に限られていることです。

私は日頃から、体育館などのスポーツ施設を利用しておりますが、それらの多くは中学校の部活の練習場所として優先されていたり、一般利用者が多く、混雑していたりするため、満足に利用できないケースが多々あります。

そこで、現在、公共の運動施設や公園が比較的少ない、徳用周辺や扇が丘周辺などのエリアにおいて、新しく体育館や体を動かせる公園、広場などを整備することを提案いたします。

土地の確保や予算の課題はあるかと存じますが、全ての市民が身近な地域でいつでも、のびのびと運動を楽しめるまちづくりのために、今後の都市計画や公共施設の配置について御検討のほど、よろしくお願いします。

○原野晃太議長　畠中勝己さん。

〔畠中勝己登壇〕

○畠中勝己　中野龍弥議員から御質問いただきました。

本市における運動施設の増設及び地域的なバランスを考慮した、スポーツ環境の整備として、徳用周辺や扇が丘周辺などのエリアにおいて、新たな体育館の整備に関する御提案をいただきました。

本市は、東西に5.4キロメートル、南北に6.7キロメートル、面積13.56平方キロメートルと、県内全ての市町の中で最も小さな自治体です。

これほどコンパクトな市でありながら、市営の体育館が、市民体育館とスポーツセンターの２つあることから、本市における体育館の配置密度は、6.78 平方キロメートルに１つとなっております。

この体育館の配置密度は県内で最も高く、また、山林や湖などを除いた可住地面積、つまり人が住んでいる地域の面積だけで比較しても、最も高いのであります。全国的に見ても、上位に入る配置密度を誇っています。

そのため、他の地域において、体育館を新たに整備する予定はありませんが、現在、野々市中央公園の拡張整備事業において、市民体育館の建て替えが計画されています。

具体的な規模については現時点では定まっておりませんが、これまで以上に、多くの方々が利用しやすい体育館になればと思っております。

また、公園について申しますと、意外と思われるかもしれませんが、本市には大小合わせて133箇所の公園緑地があり、この数につきましても、本市の面積からすると非常に密度が高く、面積当たりの公園数も県内で一番を誇っております。

小さな緑地を除いて、多くは広場の機能を備えており、地域の方々が運動や憩いの場として活用されていますので、天候には左右されますが、身近な公園も御利用いただければと思います。

○原野晃太議長　11番、羽左間隆太議員。

○羽左間隆太議員　私は、冬季における市民の利便性向上と安心安全の確保のため、除雪状況をリアルタイムで確認できる、スマートフォンアプリの制作及び導入を提案いたします。

本市において、冬季の除雪は市民生活に直結する重要な課題ですが、現状では、自分の利用する道路の除雪が、いつ行われるのかわからないという情報不足が、市民の大きな不安やストレスにつながっていると感じています。

そこで市内の道路地図をベースに、除雪完了、作業中、未除雪といった状況を、リアルタイムで可視化するアプリの導入を提案します。

さらに、市民から道路の積雪状況や危険箇所を写真付きで投稿・報告できる双方向の機能を備えることで、市側にとっても、迅速な対応や危険の早期発見につながると考えます。

除雪体制そのものを、大幅に増強するには多額の予算や人員が必要ですが、デジタル技術を活用した情報提供の充実であれば、市民の不安を和らげ、冬季に市役所へ集中する問合せ

電話の件数を大幅に削減できるなど、業務の効率化にもつながります。

ぜひ、検討のほど、よろしくお願いいたします。

○原野晃太議長　田中陽子さん。

〔田中陽子登壇〕

○田中陽子　羽左間隆太議員の御質問にお答えいたします。

除雪に関する情報提供や対応につきましては、実施する除雪道路路線を市ホームページなどで確認することができるものとなっており、ほっと HOT メール、市公式ＬＩＮＥ、結ネット、Yahoo!防災速報を活用し、作業開始などの実施状況について、情報を発信を行っております。

また、市民の皆様からお寄せいただく電話等の情報に対しましては、その都度、現地確認や直接聞き取りを行うなど、適切な対応に努めているところでございます。

一方では、羽左間議員がお話しのように、自分の利用する道路の除雪がいつ行われるのかわからないといった御意見もいただいており、情報提供の充実は重要な課題であると認識しております。

羽左間議員御提案のスマートフォンアプリにつきましては、市民の皆様の不安軽減に加え、業務の効率化にもつながる可能性があるものと考えておりますが、導入にあたりましては、いくつか課題があるものと考えております。

具体的には、多数の除雪車両へＧＰＳ機器等を搭載し、作業状況をリアルタイム、かつ正確に集約、配信するためのシステム構築やその開発、維持管理に要する費用の確保、さらには可視化による、運用体制の整理などが挙げられます。

加えて、アプリに投稿機能を備える場合には、寄せられた情報に対して、迅速かつ適切に対応するための新たな業務体制の構築が必要となります。

また、情報の受付をアプリに移行することによる業務の効率化の効果についても、十分な検証が必要であると考えております。

今後につきましては、先進自治体の導入事例や費用対効果など、本市にとって、最も効果的な情報提供の充実の在り方について、調査研究してまいりたいと考えております。

○原野晃太議長　12 番、長守慶仁郎議員。

○長守慶仁郎議員　私は、本市の夏の伝統行事である野々市じょんからまつりにおいて、来場者のための飲食・休憩スペースの拡大及び新たな設置を提案いたします。

私は毎年、じょんからまつりを楽しみに足を運んでおりますが、会場内の飲食スペースが常に満席の状態で、座る場所を確保できないケースが多々あります。

その結果、多くの来場者が階段や地べたに座って飲食をされており、食べるのに不便を感じるだけでなく、安全面や衛生面、また、お祭りでの景観という点からも課題があると感じております。

じょんからまつりは、市外からも多くの人が訪れる本市の大きな魅力のひとつです。

だからこそ、お祭りを訪れた全ての人々が、快適に過ごせる環境作りが不可欠であると考

えます。
　そこで、現在のスペースを拡張することはもちろん、会場内の空きスペースの有効活用や、立ち食い用のハイテーブルを設置するなど、限られた空間でも、多くの人が利用できる工夫を提案いたします。
　市民だけでなく、市外からの観光客の満足度をさらに高め、誰もが心地よく楽しめるじょんからまつりにしていくために、このような会場内の環境整備について、市の考えをお聞かせください。
○原野晃太議長　西村雅博さん。
　　〔西村雅博登壇〕
○西村雅博　長守議員の質問に御答弁いたします。
　本市の夏を彩ります野々市じょんからまつりは、８月１日、２日の２日間にわたり、野々市市文化会館、野々市小学校近辺にて盛大に開催されます。
　この野々市じょんからまつりは、今年で 45 回目を迎える本市を代表する夏祭りです。
　この地の盆踊りとして、受け継がれてきた指定無形民俗文化財である野々市じょんから節の演奏に合わせ、参加者が大きな一つの輪になり踊りを楽しみます。
　例年、市内外から延べ３万人を超える方々に御来場をいただいており、今年も艶やかな野々市じょんから踊りや、多彩なステージイベントが行われるほか、市内の飲食店等による出店が多数予定されております。
　長守議員御提案の、会場内の空きスペースを活用した立食用のハイテーブルの設置による飲食・休憩スペースの拡大につきましては、来場者の利便性を大きく向上させる大変素晴らしいアイデアであります。
　今年の野々市じょんからまつりから、会場に設置することといたしました。
　今後につきましても、市民の皆様はもとより、市外から訪れる多くの方々に野々市じょんからまつりを心から楽しみ、心地よく過ごしていただけるよう、しっかりと準備してまいりたいと考えております。
○原野晃太議長　長守慶仁郎議員。
○長守慶仁郎議員　ありがとうございます。
　ひとつ質問なのですが、具体的にどこに設置するなどの例を、提示していただけるとありがたいです。
○原野晃太議長　西村雅博さん。
　　〔西村雅博登壇〕
○西村雅博　議員から、どこに設置するのか具体的にという再質問をいただきました。
　具体的には、文化会館フォルテの北側、通常駐車場としている空きスペースがございます。そこに、立食用のハイテーブルを設置する予定で考えております。
　長守議員におかれましても、ぜひとも、じょんからまつりに御参加いただき、御自分の目で見ていただいて、祭りを満喫していただきたいと思っております。

○原野晃太議長　10 番中野龍弥議員、11 番羽左間隆太議員、12 番長守慶仁郎議員。

○中野龍弥議員　ありがとうございました。

○原野晃太議長　13 番、西井悠真議員。14 番、木村治斗議員。15 番、野々村颯人議員。

〔西井悠真議員、木村治斗議員、野々村颯人議員登壇〕

○原野晃太議長　13 番、西井悠真議員。

○西井悠真議員　私は、野々市中央公園周辺の道路における、交通安全対策の強化について提案いたします。

現在、私が提示している画像の場所におきまして、日頃から強い危険を感じており、その理由は大きく２点あります。

１点目は、街路樹が道路側に大きく張り出していることです。

この影響で、特に自転車で通行する際、車道側への大幅なはみ出しを余儀なくされ、後方や前方から来る自動車との接触リスクは高まり、非常に危険な状態です。

２点目は、中央線が摩耗して見えにくくなっていることです。

これにより、車線の境界が曖昧になり、ドライバーが意図せずに対向車線へ侵入してしまうなど、重大な事故を誘発しかねない現状があります。

そこで私は、中央線の引き直しと併せて、街路樹対策として適切な剪定、または安全柵の設置を提案いたします。

剪定を行うことで日陰が減少してしまう懸念や、柵の設置には費用や時間がかかるという課題があることは重々承知しております。

しかし、何よりも優先されるべきは、市民の命を守る安全対策です。

誰もが安心して通行できるよう、中央線の引き直しと、現場の状況に応じた最適な街路樹対策の実施について、市の御見解をお聞かせください。

○原野晃太議長　中村和流さん。

〔中村和流登壇〕

○中村和流　西井悠真議員の御質問にお答えいたします。

議員御提案の野々市市中央公園周辺の道路における、交通安全対策の強化についてでございますが、現地を確認して、まず１点目の道路に張り出している樹木につきましては、野々市市中央公園内に植えられている高木、高い木でございます。

これら高木は、木の種類によって成長が早く、枝葉が四方に広がり、道路側に張り出すことがあるため、適切な維持管理が必要であるものと認識しております。

西井議員御指摘のとおり、道路側への枝葉の張り出しは交通安全上の懸念がございますので、早急に剪定を実施したいと考えております。

次に、２点目の中央線についても確認いたしました。

この道路は、道路の幅員や交通量などから、中央線の必要がない路線であるものと認識しております。

しかし、現地の状況を改めて確認の上、白山警察署と引き直しが必要かどうかについて協

議してまいりたいと考えております。

また、自転車で走行の際は、左側通行が原則でございますので、歩行者や対向車などに注意し、安全に走行していただきたいと考えております。

いずれにしても、市民の皆様が道路を安全安心に利用していただけるよう、引き続き、道路環境の適切な維持管理に努めていきたいと考えております。

○原野晃太議長　14番、木村治斗議員。

○木村治斗議員　私は、歩行者の安全な道路横断を確保するため、歩行者用信号機の視認性向上及び定期的な点検体制の強化を提案いたします。

日頃、市内の交差点で信号待ちをしている際、日中の明るい時間帯において、歩行者用信号の表示が非常に暗く、見えにくいと感じる場所が散見されます。

中には、青か赤かの判別が困難なほど、暗くなっている信号機もあり、これは、歩行者の誤認による飛び出しや重大な交通事故を誘発しかねない、極めて危険な状態であると痛感しております。

この原因には、電球の経年劣化や故障あるいは西日などの太陽光が反射して見えなくなる、擬似点灯現象などが考えられます。

信号機の設置や管理の主な管轄は警察となりますが、市民の命を守るため、市から警察に対して、市内の暗い信号機の速やかな修理や、日中でも見えやすいＬＥＤ式信号機への早期更新を、強く要望していただきたいと考えます。

また、不具合の早期発見に向けて交換や修理にとどまらず、地域の通学路安全点検と連動した定期的なチェック体制の整備や、市民が気づいた際に、気軽に報告できる仕組み作りについても併せて提案いたします。

誰もが安心して歩ける野々市市にするために、本提案について市の御見解をお聞かせください。

○原野晃太議長　木谷直子さん。

〔木谷直子登壇〕

○木谷直子　木村治斗議員から、歩行者用信号機に関する御提案をいただきました。

現在、県内の歩行者用信号機につきましては、令和６年度末時点で、約６割がＬＥＤ式信号機になっていると、石川県警察本部から伺っております。

議員お話しのとおり、日中でも見えやすいＬＥＤ信号機への更新は、地域の交通安全対策を図る上で、大変有効であると認識をしておりますが、現在、県全体で計画的に順次整備が進められていることから、地域の方々や、市の交通安全関係団体の皆様の御意見を伺いながら、必要に応じて、警察への申し入れを行ってまいりたいと考えております。

また、見えづらい、分かりづらい信号機につきましては、現在も、警察や関係機関と連携し、通学路の合同点検などを通じて早期発見に努めております。

今後は市役所の総務課防災安全係で直接、御意見を伺うだけではなく、県警察本部ホームページにあります信号機ボックス、信号機意見箱という信号機に関する意見や要望を伝え

ることができる専用フォームの存在を、より多くの方に知っていただけるよう周知に努め、迅速に報告できる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

○原野晃太議長　15番、野々村颯人議員。

○野々村颯人議員　本日は、野々市市を襲う地震の中で最も甚大で、近い将来発生する確率が最も高い、森本・富樫断層帯及びその他想定されている、大地震への対策について質問します。

例えば森本・富樫断層帯について、国が想定するワーストクラスにおける震度分布図を考えると、野々市市の広域で、震度６弱から６強に相当する、非常に大きな揺れに見舞われます。

このような甚大な被害により倒壊した家に対して、市では古い木造住宅を直すために最大210万円の補助金を出したり、まとまったお金を立て替えなくていい、便利な制度を導入したりしていると認識しております。

外面的に見れば、非の打ち所のない、非常に実用的な制度のように思えますが、私はこれには致命的な盲点があると考えております。

それは市民が自分で気づいて、自分から市役所に言いに行かないと制度を受けられないという点です。

白山市在住の私は、新耐震基準を満たさない1981年６月１日より前に建てられた家に住んでいますが、このような手厚い補助金の制度や、お金を立て替えずに済む便利な仕組みがあることを、これまで何も知らずに、支援を受けられないまま過ごしてきたのが実情です。

どれだけ市役所が最善だと思われる制度を作ってホームページ等に載せていても、お年寄りの方や、情報を知らない市民のところに届いていなければ、その制度は十分に機能しているとは言えません。

また、野々市市は白山市よりも人口が少ない上、財政力もあるため、補助金や制度の周知にかけられる費用も多いはずです。

そこで３点お伺いします。

第一に、市内にある古い木造住宅のうち、実際にこの補助金を利用して家を改修した人は全体の何％を占めているのでしょうか。

第二に、野々市市にはどの家が1981年以前に建てられたかというデータがあるはずです。これは電子機器で条件を満たす対象を絞るだけで済むので、人件費や労力もかかりません。

これらを全て考慮すると、私からの提案として対象の世帯に向けて、お金を立て替えなくて済む制度があるという旨の手紙を送ることが挙げられます。

この方法であれば、人件費等のコストも最小限に抑えられるため、資金を圧迫しないと思うのですが、これについてどうお考えになられますか。

第三に、野々市市は既に公共の場において充実しており、利便性に優れているように感じます。

インフラに充てる費用や、その他実用性のない制度等に配分する資金を必要最低限にま

で抑え、浮いた資金を補助金の限度額の上昇や、市民への周知のための資金に充てるべきだと思います。

地震による犠牲者を一人でも減らすために、前向きな回答をお願いします。

○原野晃太議長　三納昭博さん。

〔三納昭博登壇〕

○三納昭博　野々村颯人議員から耐震改修促進に関する３点の御質問をいただきました。

１つ目の、これまでの住宅耐震化促進事業にかかる耐震改修工事の実績につきましては、補助制度の創設した平成 20 年度から令和７年度末までに、合計 17 件ございました。

また、市内の住宅総数のうち、耐震性を有している住宅の割合、いわゆる耐震化率でございますが、古い住宅の建て替えや新築、解体が進んだことにより、現在は約 94%に達しております。

次に２つ目の、制度の周知についてでございます。

本市では、毎年５月に送付する固定資産税などの納税通知に併せ、補助制度の内容を御案内させていただいております。

また、えふえむ・エヌ・ワンでの紹介や、広報誌への掲載など、さまざまな方法で広く周知を行っております。

最後に３つ目の、今後の制度拡充に関する御提案についてでございます。

本市では補助制度の創設後、さまざまな見直しを行っており、補助金額の上限については創設時の 70 万円から段階的に引き上げ、現在は 210 万円になっております。

これまでの実績を振り返りますと、補助金額を引き上げた際に、必ずしも利用件数の増加には繋がっていないように感じております。

一方で、能登半島地震の発生以降、耐震改修に関する問合せが一時的に急増し、利用件数が伸びた実績があります。

このことから、補助制度の利用促進を図るためには、これまでの補助金額の増額のほか、市民の皆様に対し、住宅の耐震化が生命や財産を守るために、いかに重要であるかを効果的に周知していくことが必要であると思っております。

今後におきましても、広報活動の工夫や丁寧な制度説明に努め、より多くの方に制度のご活用をいただくことで、安全・安心なまちづくりの実現に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

○原野晃太議長　野々村颯人議員。

○野々村颯人議員　三納市議会議員、御答弁のほど、ありがとうございます。

もちろん野々市市は石川県内、ましてや全国の中でトップクラスにインフラが整っている、そういった市だと私は認識しております。

ですから、インフラに充てる資金を最低限まで減らして、補助金の限度を上げるということは、必要不可欠なのではないかと考えます。もちろん、そういった対策等は非常に感謝しております。

私は三納議員の意見を真摯に受け止めており、また野々市市全体にも感謝しております。

どうか御検討のほど、よろしくお願いいたします。

○原野晃太議長　三納昭博さん。

〔三納昭博登壇〕

○三納昭博　再質問いただきました。

今のお話しでいきますと、インフラのほうの無駄を抑えようというお話しと周知の方法、そして新たなそちらのほうを、また補助の増額にという２点であると思います。

まず、市のほうとしましては、インフラのほうの、そういうような節約とか、そういったような無駄を抑えるというものと、補助というのは、まず別々に考えております。

もちろん、市のほうとしてもインフラのほう、無駄に整備しているわけでもございません。

そして、我々、市議会議員も無駄があるようでしたら、しっかりと、ないように目を光らしていきたいと思います。

そういった面で、別々であると考えております。

補助につきましても必要であるということでしたら、また、検討するということもいただいておりますし、今の額は、今の額ということで、御理解いただきたいと思います。

以上です。

○原野晃太議長　13 番西井悠真議員、14 番木村治斗議員、15 番野々村颯人議員。

○西井悠真議員　御答弁いただきありがとうございました。

○原野晃太議長　これで一般質問を終わります。

副　市　長　の　感　想

○押田浩三議会事務局長　それでは、山口副市長より感想を申し上げます。

〔山口良野々市副市長登壇〕

○山口良副市長　副市長の山口でございます。

今ほど、高校生議員の皆さんから 15 の項目にわたり、議会の一般質問を、体験をしていただきました。

市長は本日不在でありますので、代わって講評をさせていただきたいと思います。

野々市市の行政における課題を、高校生ならではの視点で分析をされ、課題を解決するための、具体の御提案というのをいただいたかなというふうに思っております。

いずれも、説得力のある質問内容であったと思います。

再質問というものもあり、議員の皆さんも大変緊張なさったんじゃないかなというふうに思っております。

議会ならではの言い回しもあり、今回の質問にあたりましては、相当念入りに準備をなされたんじゃないかなというふうに思います。何よりも、真摯な姿勢で質問をいただいたこと、感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

議案に対する野々市市のお答えでございますが、今ほど答弁をさせていただいたとおり

でありますが、それぞれの答弁に、共通して言えることというのは、課題を解決するためには、様々な角度から検討をする必要があるということであります。

このことは、今回の質問を通して、皆さんも感じていただけたんじゃないかなと思います。

今回の体験を機に、さらに野々市市に興味を持っていただき、そして、野々市市を好きになっていただいたら、ありがたいなと思います。

皆さんから本日いただきました御提案につきましては、今後のまちづくりの参考にさせていただきたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

○押田浩三議会事務局長　山口副市長、ありがとうございました。

副　議　長　挨　拶

○押田浩三議会事務局長　最後に、主催者を代表いたしまして、小堀孝史副議長が御挨拶を申し上げます。

〔小堀孝史野々市市議会副議長登壇〕

○小堀孝史副議長　本日は、令和８年度野々市市議会高校生議会に御参加いただきました、石川県立野々市明倫高等学校の 14 名の生徒議員の皆様及びお世話をいただきました先生方に、心より感謝とお礼を申し上げます。

本日の高校生議会におきまして、皆様方より頂戴いたしました一般質問は、回を重ねるごとに精度が増しており、市の課題を自分たちの問題として捉えようとする姿勢が、強く伝わってきました。

高校生の皆様におかれましては、今後とも、自分たちの目標に向かってしっかり学生生活を送っていただき、皆様の中から、将来の野々市市議会議員を目指す方が出てこられることを切に願い、挨拶に代えさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

○押田浩三議会事務局長　小堀副議長、ありがとうございました。

閉　　会

○原野晃太議長　以上をもって、野々市市議会高校生議会の議事全部を終了いたしました。

これにて会議を閉じます。

令和８年度野々市市議会高校生議会を閉会いたします。

午後４時 18 分閉会